

新刊紹介

半谷高久・安部喜也 編著

水質汚濁研究法

今日の文明社会を築き上げるまでには、何万年にもわたる人間と自然との闘いがあったことは歴史が示すとおりである。そして、その闘いの先兵となり、現代社会の建設に大きく貢献してきたのが土木技術であったことは Civil Engineering の名が如実に物語っている。

しかし、いまや、勢い余った人間の力が自然との調和をつき崩し、自然から受ける恩恵をも踏みじろうとする結果、人間の存在さえも危うくしかねないという状態にある。

本書は、その序文で「水はいま病んでいる。そして、その病気は人の心にまで伝染しそうなのである」と述べているように、そうした危機を感じ、地球化学の立場から長年水質汚濁問題と取り組んできた著者とそのグループによる研究の成果を手引書風にまとめたものである。

「総論」にはじまり、「河川の現象と観測」「水質汚濁の発生源と発生量の推定」「水中有機化合物の分析法」といった内容が、豊富な水質調査の経験や水質汚濁研究の実績に基づいて述べられている。第3章の「水質汚濁の発生源と発生量の推定」がやや羅列的であり、また、第4章の「水中有機化合物の分析法」が専門的すぎる点はあるが、全体的に実例を混えてわかりやすく記述されており、水質汚濁をこれから研究しようとする者にとっても、まさに好適の書といえよう。とくに、第2章の「河川の現象と観測」には、拡散や自浄作用などのとっつきにくい理論が実際の現象と結びつけて論じられているほか、水質汚濁調査への写真の利用という目新しい部分もあって、非常に興味ぶかい。

われわれ土木技術者は、水質汚濁という点からも、開発が何をもたらしてきたかを、ここでじっくり考えてみる必要があるのではなかろうか。

[H]

(丸善刊、A5判・346ページ、定価2200円、)
昭和47年6月6日受付

兼岩伝一君と記念出版の会編

民主的国土建設

と一技術者

兼岩伝一の歩んだ道

1970年9月15日に急逝した兼岩伝一さんの異色ある伝記が出版された。兼岩さんは大正14年に東大土木工学科を卒業、内務省、帝都復興局技師、愛知県都市計画課技師、三重県都市計画課長、東京府道路課長、埼玉県土木課長を歴任、戦後参議院議員に選ばれ、昭和24年日本共産党入党、以来党活動をとおして国土建設の仕事に没頭した。入党は彼が50歳のときであった。この年で、当時としては経済的困難などを予想しながらも、専門的活動家への道に踏み切ったのは、なみなみならぬ決意であったと思われる。

戦前、彼は区画整理の仕事をしている間に経済学を勉強しなければならぬと思うようになった。その勉強に没頭し、マルクス経済学に深く浸透していく。敗戦直後、全日本建設技術協会の仕事に全精力を傾け、土木技術者運動を盛りたて、建設省設立運動の礎を築いた。共産党入党後は、治水、国土の開発と保全、自治体闘争の諸問題を中心に、多面的な政治活動を行ってきた。

本書は、彼の多数の論文、評論のなかから主要なものを選び年代的に分類してまとめたものであり、それぞれの論文の解説と位置づけを含めて、関係者の座談会や知友の紹介文が多数掲載されている。これらを読めば、戦前からの苦難に満ちた技術者活動の背景、政治活動とくに共産党入党へのいきさつ、戦後の大水害頻発に対する独自の見解など、ユニークかつ個性の強い一生を送られた彼ならではの思想、技術観、などがうかがわれる。

晩年、ある特定の政党をとおしての活動であったために、彼の主張や見解に賛成できない人は多いであろうし、その思想と行動は必ずしも一般の土木技術者にもよく理解されていない。しかし、重要なことは、彼のそれ以前からの技術者運動、都市計画上における業績とその苦闘のうちに、彼が晩年の道を選んだという事実を理解することであろう。一生を通じて、誠実に不退転の意志を堅持し、若々しい理想に燃え尽きた特異な土木技術者の人生こそは、思想は異なっても多くの土木技術者に感銘を与えるにたるであろう。

[Y.T]

(民衆社刊、A5判・409ページ、定価1500円、昭和47年11月9日受付)

お願いとご案内

土木学会誌の書評・新刊紹介の欄は、土木学会誌編集委員会書評小委員会が担当し、土木工学関係図書および土木技術者が知っておくべき本、または読んでおきたい本などを中心にご案内をしております。つきましては、土木関係図書が発行されましたときは、ぜひとも下記住所気付で書評小委員会あて2冊(うち、1冊は土木図書館へ回付)寄贈賜わりたくおねがい申し上げます。

お届けいただきました図書は書評小委員会にて然るべく取計らわせていただきます。なお、「こんな本が出されている」というコメントでもかまいませんので、ご教示下さいますようお願い申し上げます。

書評小委員会(〒160/東京都新宿区四谷1丁目土木学会事務局編集課気付/電 03・351・5130番)